

三つの柱と対話で育む、岡崎製作所の人づくり

三菱自動車工業(株)
執行役員 岡崎製作所長
浜崎 憲 氏

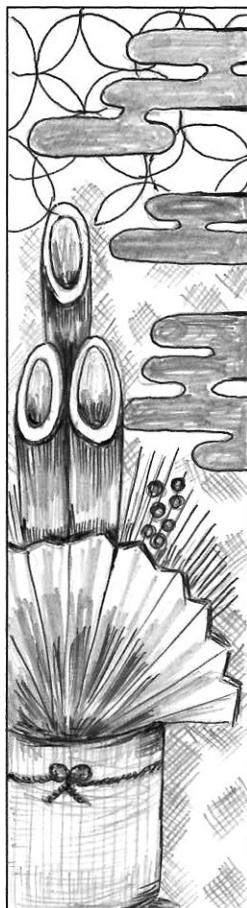
教育随想



三菱自動車は、人材育成の基盤を三つの柱で構成しています。三菱グループ共通の根本理念である「三菱三綱領」、当社固有の「ビジョン・ミッショントン」、日々の業務の行動指針である「MMC WAY」です。

これらを教育の核として位置付け、体系的且つ実践的な育成を行っています。

「三菱三綱領」は、当社の行動と判断の基盤です。事業の究極目的を社会貢献に置く「所期奉公」、公明正大で透明な行動を旨とする「処事光明」、国際的かつ長期的な視点で事業を開拓する「立業貿易」。これらは、日常の業務判断や対外活動の行動規範として、当社の「ビジョン・ミッショントン」と共に具体的な教育に落とし込まれており、その具体的な行動指針として「MMC WAY」があります。



岡崎製作所ではこの三つの柱のもと、特にコミュニケーションを重視した人材育成に取り組んでいます。所長の私からのビデオメッセージやご家族への手紙を通じて思いを伝えながら、月2回、6名程度の小グループ対話会を実施し、2Way（双方

（はまざきけん）

（向）コミュニケーションにより『岡崎製作所イズム』の浸透を図り、厳しさの中にも楽しさとやりがいのある職場づくりを目指しています。

岡崎製作所が掲げる「人と技術の融合による高品質なモノづくり」を実現するためには、変化を恐れず、従来のやり方に囚われない柔軟な考え方をもつことが重要です。岡崎製作所イズムを現場に根付かせ、変化に立ち向かいながら未来のモノづくりを力強く牽引できる人材をこれからも育成し続けます。



令和8年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
三菱自動車工業(株) 執行役員 岡崎製作所長 浜崎 憲 氏	
この人に聞く	2
助産師 伏田 綾 氏	
羅針盤	2
社会科指導員 平岩 大督	
ふれあい	3
美合小学校 教諭 赤堀 大知	
特集	4
おかざき世界子ども美術博物館 ～開館40周年 子供たちの創造力を育む美術館～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
旧校舎さよなら集会 (昭和47年)	
この本を	8

包括的性教育を通して、「性に関する正しい知識と人を大切にする心」を届けたいと願いながら助産師として働く伏田さん。性暴力をなくし、誰もが尊重される社会を作りたいとの思いが、お話を伝わってきます。

伏田さんにとって、**包括的性教育**を伝える原動力は何か――

性暴力からすべての人を守りたいという願いが、私の原動力です。

市内に限らず、多くの学校に出前授業で訪問しています。子供たちの発達段階に合わせて包括的性教育について話しています。先日は周りの人が自分に近づいて嫌だと思わない距離感や、お産劇にて性の知識と

誰もが尊重される社会をめざして

助産師
伏田 綾 氏

この人に聞く



するスキルが身に付きます。これは性暴力の防止につながります。

小学生の担当看護師になりました。まだ小学生なのに、彼女の人生は大きく変わってしまいました。彼女が

優しくしてもらつたから、将来看護師になりたい」と言つてくれました。

私は涙が止まりませんでした。しかし、当時の私は未熟で、「あなたは絶対に悪くない」と言つてあげられま

せんでした。そのことを、今でも後悔しています。だから、性暴力の被害に遭つた方に、「あなたは汚れない、悪くない」と講座で伝えるようになっています。いつの日か、あの小学生にも届ければと願っています。

性暴力の被害に遭つた方は、自分が汚れたと思い、自殺をしたり精神疾患を抱えたりする人が多くいます。一方で、性被害を受けた男性もの多く存在します。そのような男性が

声をあげにくいのが、今の世の中です。だから、女性だけでなく、苦しんでいる男性も多くいるのです。

――**学校教育に関する取組を教えてください――**



氏名
ふしだ
あや
生年月日
七月三十日
住所
岡崎市真伝町

A教諭は、地元商店の見学や顧客にかかる商店を紹介した。「六十六年に続いているよ」と、子供たちに伝えたことで、「長い間続いているのはなぜか」という疑問が、学級全体に広がつていった。

A教諭は、小学校三年「商店で働く人」の単元で、個人商店の強みである顧客一人一人に寄り添う温かさに着目し、学区の商店を教材化した。導入にて、A教諭は学区に古くからある商店を紹介した。「六十六年

命の大切さを中学生に伝えました。学習指導要領の「はどめ規定」の撤廃に向けた署名活動等も行っています。「はどめ規定」とは、例えば、小学五年理科で「人の受精に至る過程は取り扱わないものとする」と規定されていることをさします。そのため、出前授業で「セックス」などネットから性の情報を得ています。誤った情報もあふれています。子供たちが多様な情報に触れられる今、正確な知識と、自ら情報を判断して選び取る力を育むことが必要です。

――**岡崎の先生方にどのようなことを伝えたいですか――**

包括的性教育は難しいと思われるかもしれません。しかし、男女混合名簿や着替えの教室の配慮等、すでに多くの取組が実践されています。そこに、相手の同意を得る、先生や友達に気持ちを聞いてもらえるという経験を子供たちに積ませてほしいと思います。そうすることで、子供たちの自尊感情が高まり、一人一人が大切にされていることを、より実感できるのではないか。

「人」と出会い、社会を学ぶ

社会科指導員
平岩 大督



気持ちに寄り添つて



美合小学校
教諭 赤堀 大知

新年度が始まったある日、Aさんは「友達のことで困っている」と訴えがあった。Aさんは、自分の納得できない気持ちを繰り返し述べ、解決策を教師に委ねてきた。訴えの内容を詳しく聞き、Aさんも非があるように感じた私は、「Aさんにも見直すところがあるので」と問いかけてしまった。すると、Aさんは「自分は何も悪くない」と言い、不満げにその場を離れていった。この関わりから、私は友人とのよりよい関わり方をAさんに身に付けてほしいと願い、Aさんの気持ちに耳を傾けることから始めた。

友人と揉めごとが起きたたびに、「自分は悪くない」と繰り返すAさんの話に耳を傾け、「嫌な気持ちになつたんだね」と思いを受容した。そのうえで、「トラブルが起きない

ためにはどうしたらよかつたのか」と問いかけることを心がけた。ある日、AさんはBさんとけんかをした。何があつたのかと問い合わせ、Bさんの行動を正そうと注意したのに、その気持ちを理解してもらえないかったことが嫌だつたんだね」と、Aさんの気持ちを受け止めた。Aさんに「どのような言い方で注意したの」と尋ねると、Aさんは「きちんと並べと、強い言い方で言つてしまつた」と答えた。Aさんは、しばらく沈黙したあと、ぽつりと「余計な一言を言つてしまつた」と言つた。この日を境に、だんだんと自分の反省点を自分で言えるようになつた。Aさんの気持ちを受け止め、何度も対話を重ねることで、Aさんは自分が行動をよりよくしようと考えられるようになつてきた。

一学期のある日、Aさんを中心とした複数の児童から給食を食べる際の机の配置を変えたいと提案があった。仲のよい子と同じグループで一緒に給食を食べたいとのことだった。教師に解決策を委ねがちだったAさんに、自分たちの力で問題を解決する経験をしてほしいと考えた。そこで、学級会の議題に給食を食べる際の机の配置を取り上げた。

学級会では、「全員が好きな人と組めない」、「困る人が必ず出る」と反対意見が続いた。自分の意見が通ると思っていたAさんは、困っている



ように見えた。そこで、「みんなが納得できるところはどこかな」と問い合わせた。すると、Aさんは「みんなで円形になつて給食を食べれば、楽しく給食も食べられるし、一人にならぬ人もいないと思います」と提案をした。Aさんの意見に多くの児童が賛成し、実施されることが決まった。周囲の意見を聞き、周りの子の思いを重ね合わせて考えることができた瞬間だつた。学級会後に「いろいろな立場の子のことを考えたいと考えを見つけたね」とAさんを褒めると、「自分の意見が正しいと思つていたけど、みんなが納得することが大事だと思った」と、笑顔を見せた。それから、Aさんはよりよい学級にしていくために、学級会で話し合い合う時間をください」と、意気込むAさんの姿に頼もしさを感じた。

最後には、「先生、学期末にみんなが楽しめるレクを企画したいけど、話し合う時間をください」と、意気込んだAさんと答え、店側から消費者の立場へ思考が転換した。児童Bは「僕のおじいちゃんの店も、お客様に寄り添つていてから長続きをしているんだ」と振り返りに記述した。児童Bは、店主が顧客と対話をしながら、商品を提案する事実に触れ、「僕は、おじいちゃんの店をもうと人気店にしたい」と社会参画する姿があつた。

「人」が創る社会を正確に捉え、地域の一員としてよりよい社会を目指し、課題解決のためよりよい方法を思考する。そんな授業を目指したい。



▲ふれあい広場大屋根の完成式典の様子

絵や彫刻をはじめとする展示物に足を止める子供たち。工作や粘土で作品作りをする親子。おかざき世界子ども美術博物館（以下、子美博）は、美術に親しむ人たちがあふれている。

子美博は、子供たちに国際的な広い視野を与え、豊かな創造力を身に付けてもらうことを目的に建てられた、美術博物館と親子造形センターからなる参加体験型ミュージアムである。

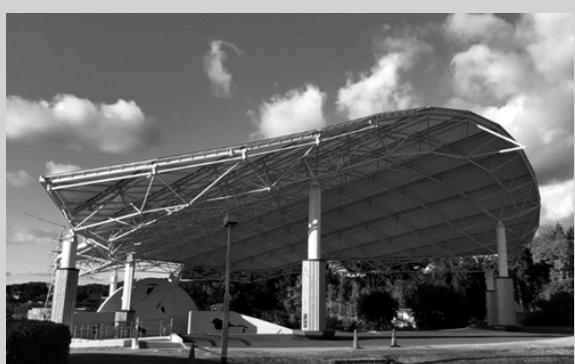
子美博（美術鑑賞）は、百ヵ国以上から子供の作品を集め、常設展示している。さらに、幼い頃から「本物」に触れ、豊かな感性を育むことができるよう、有名美術家の十代の頃の作品も収蔵し、展示紹介されている。そして、年に四回実施される企画展は、「子供が楽しめる」内容で考えられており、体を動かしたり、自分の頭で考えたりする部分を積極的に設けている。さまざまなアプローチで子供たちの心や創造力を刺激するものとなつており、毎回大盛況となっている。

親子造形センター（創作活動）は、子供たちの想像力と創造性を最大限に引き出す場所として、四つの体験教室が用意されている。専門の指導員が常駐しており、気軽に参加することができるほか、子供たちの「創りたい」という思いに応え、楽しく親子が交流できる場にもなっている。また、多くの小学校が造形教室として製作体験に訪れたる、教員が作品作りのポイントを学び、共有したりできる研鑽の場としても活用されている。

開館から四十年、子美博は「子供」に焦点を当てた展示や催しで、岡崎の美術文化を支え続けてきた。「リトルアーティスト展」や、中央総合公園に移る平成三十年までは「おかざきっ子展」が開かれるなど、岡崎の美術教育との結び付きは強い。これからも岡崎の子供たちの創造力、創作意欲を刺激する場所としてあることを願う。

おかざき世界子ども美術博物館40年の歩み

年	出来事
1981年	岡崎市議会で美術館構想発表
1985年	おかざき世界子ども美術博物館開館
1987年	富田勲作曲のテーマ曲発表
1992年	遊具『妖精の棲む浮かぶ島』完成
2020年	入館者500万人達成
2021年	『子どもたちのアール・ブリュット展』開始
2025年	開館40周年、ふれあい広場大屋根完成



▲ふれあい広場の大屋根

～美術鑑賞～

収蔵されている作品



▲岡崎の児童の作品



▲西ドイツの子供の作品

「考える人」
1880年に制作された
8作品のうちの1つ



▲ロダンの作品



▲有名美術家の10代のころの作品

子供に人気の企画展



▲スイッチあそび展 (R6)



▲何度も開かれている人気の企画展



▲ミッケ！のせかいであそぼう展 (R7)



▲小学校 造形教室 (美合小)

～創作活動～

【児童の感想】

指導員の方が、「粘土が厚すぎるから焼けないよ」と言ってくださったので、ちょうどよい厚さで作ることができた。たくさんの道具があって、いろんな種類の模様をつけることができたので、満足のいく作品になった。焼きあがってきた「はにわ」を見ると、一生懸命作ってよかったと思った。

【先生の感想】

専門の指導員の方が、子供たちの自由な発想を受け止め、それに合った作品になるように、丁寧に指導してくださいました。

筆やへらの種類が豊富で、子供たちは熱心に作品作りを行っていた。授業でも事前の準備がどれだけ大切かが私の学びになった。



四つの体験教室



● 教育最新情報

◆令和八年度全国学力・学習

状況調査

調査の対象

小学六年生、中学三年生

調査事項

小学校は国語と算数、中

学校は国語、数学、英語で

行われる。本調査を行うこ

とにより、児童生徒の学力

や学習状況を把握分析し

て、教育施策の成果と課題

に関する検証と改善を図る

とともに、児童生徒に対す

る教育指導の充実や学習状

況の改善等へとつなげてい

く。さらに、これらの取組

を通して、教育に関する継

続的な検証改善サイクルを

確立していく。

- 調査実施日

【国語・算数・数学】

令和八年四月二十三日(木)

・自主研究発表校

十月七日(水)

・竜海中学校

十月七日(水)

・南中学校

十月二十一日(水)

・竜谷小学校

十一月十一日(水)

・矢作南小学校

十月十四日(水)

◆第四回あいち教育賞

今年の「あいち教育賞」で

は実践のすばらしさ、論文と

しての完成度の高さ等が評価

され、岡崎市から最優秀賞が

選出された。

実践を論文としてまとめた

寺町茶園11-3)

岡崎市美術館(岡崎市明大

【中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと】

◆令和八年四月二十日(月)～

二十三日(木)の期間内のい

ずれかに実施

【中学校英語「話すこと】

◆令和八年四月二十四日(金)～

二十七日(月)、もしくは

四月二十八日(火)～五月二

十九日(金)の期間内のい

ずれかに実施

【研究発表について】

◆研究発表に於ける功

績が認められ、次の皆様が叙

勲・表彰の栄に浴された。

瑞宝双光章 村上 信良

瑞宝双光章 加藤 明

瑞宝双光章 稲葉 浩之

瑞宝双光章 倉橋 裕

瑞宝双光章 長谷川四郎

瑞宝双光章 有我 亮介

瑞宝双光章 近藤 正義

瑞宝双光章 岡田 豊

瑞宝双光章 野田 光宏

瑞宝双光章 内田 義和

瑞宝双光章 犬塚 尊夫

瑞宝双光章 栗田万砂夫

瑞宝双光章 水野 昌孝

◆第69回岡崎市小中学校書き

◆第69回岡崎市小中学校書き

初め展

岡崎市内全小中学校の各学

級二点の代表作品(毛筆)と、

小学生三年生以上の学年一点

の代表作品(硬筆)、約二千点

以上が展示される。

第4区

中学生男子

第5区

小学生女子

(区間一位)

第3区

小学生男子

第4区

中学生男子

第5区

小学生女子

第6区

中学生男子

第7区

小学生女子

第8区

中学生男子

第9区

小学生女子

第10区

中学生男子

第11区

小学生女子

第12区

中学生男子

第13区

小学生女子

第14区

中学生男子

第15区

小学生女子

第16区

中学生男子

第17区

小学生女子

第18区

中学生男子

第19区

小学生女子

第20区

中学生男子

第21区

小学生女子

第22区

中学生男子

第23区

小学生女子

第24区

中学生男子

第25区

小学生女子

第26区

中学生男子

第27区

小学生女子

第28区

中学生男子

第29区

小学生女子

第30区

中学生男子

第31区

小学生女子

第32区

中学生男子

第33区

小学生女子

第34区

中学生男子

第35区

小学生女子

第36区

中学生男子

第37区

小学生女子

第38区

中学生男子

第39区

小学生女子

第40区

中学生男子

第41区

小学生女子

第42区

中学生男子

第43区

小学生女子

第44区

中学生男子

第45区

小学生女子

第46区

中学生男子

第47区

小学生女子

第48区

中学生男子

第49区

小学生女子

第50区

中学生男子

第51区

小学生女子

第52区

中学生男子

第53区

小学生女子

第54区

中学生男子

第55区

小学生女子

第56区

中学生男子

第57区

小学生女子

第58区

中学生男子

第59区

小学生女子

第60区

中学生男子

第61区

小学生女子

第62区

中学生男子

第63区

小学生女子

第64区

中学生男子

第65区

小学生女子

第66区

中学生男子

第67区

小学生女子

第68区

中学生男子

第69区

小学生女子

第70区

中学生男子

第71区

小学生女子

第72区

中学生男子

第73区

小学生女子

第74区

中学生男子

第75区

小学生女子

第76区

中学生男子

第77区

小学生女子

第78区

中学生男子

第79区

小学生女子

第80区

中学生男子

第81区

小学生女子

第82区

中学生男子

第83区

小学生女子

第84区

中学生男子

第85区

小学生女子

第86区

中学生男子

第87区

小学生女子

・カツト 矢作北中 新美 友紀乃

旧校舎さよなら集会 (昭和47年)

写真提供：南中学校

写真は、校舎建て替え工事の開始にあたり行われた、「旧校舎さよなら集会」の一場面である。全校生徒が旧校舎の前に集まって、旧校舎への別れを告げている。

旧校舎は、昭和二十五年に南中学校が岡崎小学校内から戸崎町へと移転した際に建てられた。この集会では、校舎の壁面を看板で飾り、生徒たちは寂しさと二十二年間の感謝をもつて旧校舎を見つめている。その後、仮設教室を経て、翌四十八年六月より、現在の校舎が使われている。

時代と共に、学びの環境は変わっていく。しかし、学び舎の形は変わっても、仲間と過ごした思い出や時間、各校で培ってきた学校文化が色褪せることはない。



本物に触れてほしい。子供たちのために展示の仕方や企画展を考える学芸員の想いに触れた。子美博は、現代のニーズに合った美術館として進化している。一方で、開館当初から変わらない子供たちに寄り添う美術館としての思いは、世代を超えて、時代が変わっても親から子へ、子から孫へと繋がっている。

どの世代の人も一人一人の人権が尊重される社会を目指したい。

伏田さんはこのように考えてみえる。性暴力に関する報道を見聞きするだけで胸が痛む。今こそ、私たちも包括的性教育を学び、子供たちに伝えていくべきだ。子供たちが笑顔で生活できる未来のために、私たちも学び続けていきたい。

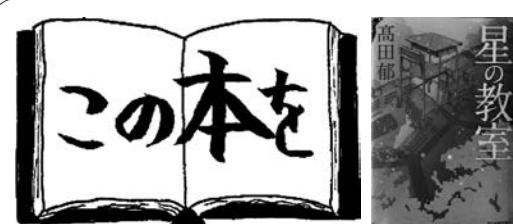
睦目



▲迎春の準備（六名小）

つまる思い出話に花を咲かせる子供たち。正月は、普段会えない親せきと会えたり、家族とゆつくり話ができる機会である。

冬休みを終え、エネルギーを蓄えた子供たちは、どのような姿を見せてくれるだろうか。子供たちの頑張りをいちばん近くで見守り、支えられる教員でありたい。



*星の教室
角川春樹事務所

高田 郁
¥1,600

心に残った一文

「学び」とは、誰にも奪われないものを自分の中に蓄える、ということなのか。

様々な理由で十分に義務教育を受けられなかつた人が通う夜間中学。「ここで手に入れた文字は、もう誰も私から奪うことはできへんの」。識字クラスで学ぶ八十路前の生徒の切なる思いと、「学び」に対する渴望の言葉が、胸に突き刺さる。

次期学習指導要領改訂において、外国人児童生徒や長期欠席傾向の子供たちへの対応は、教育の多様性を尊重する重要な柱として位置付けられている。教育を受けることは、その人の人生に希望の灯をともすということだ。「学び」について、深く考えさせられる一冊である。

*生きる言葉
新潮社
俵 万智
¥940

*パパイアから人生
小学館
夏井いつき
¥1,700

*図解 中学校道徳の授業デザイン
明治図書出版
山田 貞二
¥1,800

矢作西小学校 原田 真弓